



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第12号

令和3年10月13日発行

文責 校長 宮地 浩幸

ダンス（今年も文化祭でお披露目します。）

今年も小野美穂先生を講師に迎えて、体育の授業の中でダンスの練習が始まりました。そして目標は、来る文化祭に向けて、島民の方々にその成果を披露することです。昨年度は「鬼滅の刃」がかなり流行していて、それを題材に構成された見事なものでした。しかし、コロナ禍にあり、島民の皆様全てにご覧いただけなかったのがとても残念だったことを思い出します。

練習は、9月29日（水）から始まりました。昨年度と子ども達の年齢構成も大きく変化しました。小学校の低学年が半数以上を占めるので、初日の練習からみんな小野先生の指導についていくのに必死な様子が窺えました。特に小学1年生にとっては、少し動きが難しくなかなか合わせることができません。それでも、小野先生の優しいご指導で、気持ちが高まり楽しそうな表情が印象的でした。異学年集団での活動の中で、学年の下の子ども達がいい刺激を受け取り、自己のスキルを向上させるのに、このような練習は大変いい機会だと感じます。

ところで、今年のダンスの曲は、ピンクレディーの「ウォンテッド」。子ども達は当然ですが、ほとんどの職員も聞いたことがありません。かつて一世風靡した大変懐かしい曲ですので、文化祭においでいただき、楽しんでいただければ幸いです。



気になるニュース

10月1日（金）に小川中学校と行われた気になるニュースをのぞいてみたら、「ガチャガチャで航空券が当たる」という新聞記事について、意見交換があっていました。ガチャガチャとは、ダイヤルを回して出てくる小型のカプセルのことです。その中に格安で行き先の分からない航空チケットが入っているらしいのです。それを受けて生徒たちが、行き先の分かる旅をしたいか、行き先の分からない旅をしたいかという意見交換をしていました。生徒たちは全て、「行き先を自分で選び、自分の計画通りに行く旅行がいい。」という意見でした。島の子ども達は、堅実で行き先が分からない場所は不安なようです。

これを聞いていて、生徒たちの日頃の真面目さが大きく反映していると思います。行き先の分からない今回のチケット販売は、コロナ禍において不況にあえぐ打開策として格安で販売されたもののようです。旅の面白みとして、訪れる場所がどんなところか初めて行く場所はある種のワクワク感があります。それを楽しみにできる人たちもいます。初めての場所なので当然不安もつきものですが、それ以上にワクワク感が優位に働くのでしょうか。典型的なのは冒険家の人たちです。だから、このような気質の人たちは、先を切り開いていくことが上手です。それに対して、何事もきちんと計画通りにやらないと不安な人

たちも当然います。学校という場所は、何事においても基本計画を立てて行動することを奨励します。行き当たりばったりでは困るからです。計画を立てるということは先を見通すということですから、そういうスキルは、変化の激しい現代社会ではとても大切なことです。生徒たちの意見は、ある意味学校で培っていることが前面に出た結果であり、島の子ども達の気質だとかなり納得するところです。

ところで、中心的な話が終わった後、小川中学校での文化的行事が行われ、その中で使った被り物のことが話題に上がりました。すると本校でも今度の文化祭で子ども達は劇を行うのですがその小道具として使う被り物が小川中学校から示されたものとそっくりだったのに驚きました。写真はその時の様子を表しています。



文化祭の練習

今年の文化祭は、ワクチン接種により島民の皆様と共に開催することができそうです。少しずつ元通りになっていくことを期待します。そんな中で文化祭当日（10月30日（土））に向けて子ども達は毎日準備や練習を頑張っています。子ども達と職員による劇や子ども達の手話を交えての合唱の練習に拍車がかかってきました。小学校1,2年生は、セリフや手話、歌を覚えるのにとっても大変なようですが、一生懸命頑張っています。劇は中学生が中心になって指導を行っています。異学年の子ども達や職員でつくる劇ですので、個々にスキルの差があるのは、仕方ありません。学校全体で1つのことを成し遂げようとする姿勢が、小規模校ならではの状況で微笑ましくなります。また、手話を交えた合唱は富田先生が丁寧に優しく、子ども達の意欲を引き出すようにご指導くださいます。

是非子ども達の発達段階に応じた頑張りをご覧くださいただければ幸いです。



今年の残暑は厳しい

例年になく、10月になっても暑い日が続きます。10月の真夏日の数が過去最高だというニュースを見ると気分がめいりそうです。しかし、毎日子ども達を校門で迎えているとみんな元気です。大きな声であいさつをしてくれます。

そんな中で、文化祭の練習を毎日行っているわけですが、今年は、体育大会を5月に実施できたお陰で、学校カリキュラムが窮屈にならずに済んでおり、10月の残暑の中でも、無理なく予定通りに文化祭が開催できそうです。唐津市内の学校では、今年の梅雨入りが早く、8月末に新型コロナウイルスの感染拡大で、体育大会がなかなか実施できずにいたところにこの残暑で、一般的にこの時期に行われる文化発表会をどうするかかなり苦労されているところがあるのを考えると本校は極小規模校であるが、その強みが十分に発揮された気がしています。

また、10月6日（水）に2回目の焼き物体験に行きましたが、このような校外学習もきちんと行われていることは、他の学校には無く珍しい状況なのです。自然現象はなかなか人間の手ではコントロールしがたいものですが、それに負けずに不易な教育活動がしっかりできていることは、保護者や地域の方々の心強い支えがあつてのことと感謝しております。